

青木被服株式会社

アパレルCAD/CAMとデザインシステム導入による 内製加工の一貫生産体制の構築

青木被服は製品の企画から生地裁断、縫製まで一貫して手がけるデニム製品メーカーだ。自社ブランド品はパリやミラノなど海外でも定期的に発表会を開催し、国内外約50店で販売する。2016年にはデニムを素材に使った着物も製品化するなど自社ブランド品は売上高の3割を占めるまで成長した。ものづくり補助金ではデザインのシステムと自動裁断機を導入し、デザイン性の高い各種製品に対応した生産体制の構築を目指した。

会社概況

自社ブランドのデニム製品展開

本社を構える岡山県井原市は「日本のデニムの聖地」とも呼ばれ、生地の生産から製品を縫製、加工する工場が集積する。1961年の創業当初は関西地方の会社から子ども服などの生産を受託。1970年代に自社工場を増設し、ジーンズのOEM(相手先ブランド生産)を始めた。

1989年には百貨店向けのOEMを開始し、2000年には中国に工場を開設した。一方、国内経済はデフレが進展し、製造から小売りまで一貫して手がける製造直販型小売業(SPA)の台頭など環境は大きく変わった。そこで自社ブランドを新たな事業の柱に育成しようと2010年にブランド事業部を新設。デザイナー(青木俊樹専務)のブランドデニムやデニム着物などを生産する。



デニムの聖地と呼ばれる井原市に本社を構える

事業内容

パリやミラノなどで発表会

青木被服の強みは日本のデニムの聖地で培った技術力にある。デザイナーが独創的なデニム製品を企画し、縫製や仕上げ加工は職人技を持った社員が担当する。自社ブランドの「FAGASSENT」「青激」は毎年、東京のほか、パリやミラノなど海外でも発表会を開き、現在は国内外の約50店で販売する。さらに2016年にはデニム素材の着物を製品化した。

ものづくり補助金ではデザイン性の高い製品を効率的に企画、生産するためのシステムと機械を2019年に導入した。シマトロニックデザインシステムはパソコン上で生地データやバーチャルサンプルを作成でき、試作品の製作を最低限に抑える。また、生地のパターンの製作も自動で行い、高精度自動裁断機を利用する。



デニム素材の着物も製品化した

事業成果

デジタルとアナログが融合

新システムと高精度自動裁断機の稼働により、試作品の製作は従来の平均4回から原則1回に減り、パターンの製作時間は6時間強から2時間強に短縮した。リードタイム全体では約50%削減できたという。さらに「自動裁断機は丸なら真円が裁断できる」と(青木茂社長)と品質の水準も高まった。

裁断後の縫製と加工は15人のベテラン社員が受け持つ。百貨店向けOEMから自社ブランドのデニム製品まで製品展開できるのも高い技術があつてこそだ。青木茂社長は「デジタルとアナログの融合が強み」と解説する。和装の着物や作業衣(さむえ)も認知度が高まり、販売数は増えている。今後も井原市の工場から世界にデニム製品を発信していく構えだ。



パソコン上でバーチャルデザインを作成

ワンポイント

ヨーロッパへの販売がカギ

岡山県には井原市と「国産デニム発祥地」の倉敷市児島という二つのデニム産業集積地がある。井原市はデニム生地の生産を長く手がけ、近年は青木被服のように最終製品まで事業展開する会社も増えた。井原駅構内の井原デニムストアで6社の製品を販売する。青木被服の自社ブランドはパンツで4万円、コートだと10万円を超える。高級服飾品は海外、特にヨーロッパが主戦場となる。岡山県も支援メニューを設け、県内デニム産業の輸出を後押しする。

代表取締役
あおき しげる
青木 茂さん



会社概要

設立	1961年	所在地	岡山県井原市西江原町501
資本金	3000万円	TEL	0866-62-1105
従業員数	32人	FAX	0866-62-7366
売上高	6億6000万円(2020年1月期)	URL	https://www.aokihifuku.co.jp